

「 生きる力を支える確かな学力の育成 」

—わかる喜び・できる喜びを実感させ、活用する力を育てる授業づくりを通して—

I 研究の内容

(1) 授業づくりについて

《研究目標》

- ◎「わかる喜び・できる喜び」が実感できる授業を展開し、学習意欲を高めることにより、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、それらを活用した思考力・判断力・表現力の育成を図る。

「わかる喜び・できる喜び」が味わえる授業の要素となる3つの学び

- ◇体験的な学び・・・具体物（道具・素材・人など）や図などを活用したり、作業や体験などの活動を十分に取り入れたりすることにより、知識や技能を活用する意識を高め、考えを深める学び
- ◇学び合い・・・友だちと関わり合う場面で、互いの考えを尊重し合い、自分の考え・意見を工夫して他に伝えたり表現したりする学び
- ◇振り返る学び・・・疑問に思ったり、納得したりしながら、自分の考え方はこれでよかったのかな などと、自分自身を振り返る学び

- ① 3つの学びのバランスや結びつきを考慮して、単元や授業の計画を見直す。
- ② 児童がより成就感や達成感を得て、活用する力を育てられるように、学び合い、体験的な学習、振り返り、評価などの方法、時間、形態などを吟味し、実践し、改善する。
- ③ 今年度も算数科において活用学習に取り組み、授業の改善・深化を図る。

(2) 集団づくりについて

《研究目標》

- ◎互いに認め合い励まし合い高め合える人間関係を築く活動に取り組み、学級力の向上を図る。  
①Q-Uテストや学級力アンケートなどから集団や個の実態・課題を把握し、改善に向けたねらいを持って、取り組みや活動を組織・体験させる。

(3) 学習習慣づくりについて

《研究目標》

- ◎家庭との連携を図り、発達段階に応じた取り組みを工夫しながら、授業の基盤となる基礎学力の定着や学習習慣の確立を図る。  
①やわたタイムの活用（朝読書、繰り返し学習）などを通して基礎学力の定着を図る。  
② 家庭学習の充実をめざし、読書習慣・学習習慣の定着を図る。

II 研究の実際

(1) 授業研究

- ①第3学年授業研究 算数 かけ算の筆算としかたを考えよう  
・日 時 平成27年11月4日（水） 5校時  
・単元の目標 ◎2位数や3位数に1位数をかける乗法の計算について理解し、その計算が確実にできるようにするとともに、それを適切に用いる能力を伸ばす。

- ②第5学年授業研究 算数 単位量あたりの大きさ 比べ方を考えよう(1)  
・日 時 平成27年11月10日（月） 6校時  
・単元の目標 ◎平均で比べることのよさに気づき、平均の意味を理解して、それをを用いることができる。

◎異種の2量の割合としてとらえられる数量を数値化して表せたり、能率的

に比べられたりすることのよさに気づき、比べ方や表し方を理解し、それを用いることができる。

(2) 「わかる喜び・できる喜び」が味わえる「活用学習」の授業実践（一人一実践）

(3) 集団づくりおよび学習習慣づくり

- ・QUテストの活用、学級力向上プロジェクトについての学習
- ・QUテスト、学級力アンケートの分析を生かした集団づくり
- ・家庭学習の手引きの活用と「家庭学習と生活の記録」カードの取り組み（6月、10月、2月）

## II 成果と課題

- 本テーマで研究して3年目、活用学習に取り組んで2年目だが、積み重ねの成果が少しずつ表れてきている。
- 自分の考えをもち、わかる・できるという実感をもつことで、学習意欲高まり、確かな学力（基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力、表現力）を定着させることにつながることを確認することができた。
- 活用学習はどの学年でも教育課程に含めているので、それまでに身につけておくべき内容をしっかりおさえることができた。また、見通しを立てて計画的に授業を組み立てることができた。
- 活用学習を継続して行うことで、自分の考えをもつことができる児童が増えている。
- 全学年で活用学習に取り組んだことで、それぞれの成果を確認したり、課題を共有したりすることができた。
- QUテストや生活アンケートを実施することで、学級集団としての実態や個人の状態を把握することができた。また、その後の取り組みや成果、指導の経過なども交流することができて、お互いに参考になった。
- 学級力向上プロジェクトに取り組み、それぞれの学級の課題を自分たちで解決しようとする意欲をもたせることができた。その結果、お互いを認めたり励ましたりしようとする意識を高めることができた。
- 家庭での学習習慣・生活習慣が、学校での学習に与える影響は大きい。その意味からも、家庭での取り組みを充実させる必要があり、「家庭学習と生活の記録」を学期ごとに3回行ったことで、保護者の意識を高めることはできた。
- 「やわたタイム」の取り組みについて、各学級の様子を交流し、参考にすることができた。

- ・基礎的・基本的な知識や技能が定着していることが、活用学習を成功させるためには必要なので、日頃から意識して取り組む必要がある。
- ・話し合いの場面で、それぞれの考えを交流して深める過程を更に工夫していきたい。
- ・全ての教科で言語活動を充実させることが、活用学習にも生かされてくるので、更に取り組みを深めたい。
- ・せっかく取り組んだ学級力向上プロジェクトについて、各学級の交流ができればよかった。
- ・「家庭学習と生活の記録」の取り組みは、家庭によって温度差がある。児童に積極的な指導をしていく場合と、保護者も含めた支援が必要な場合がある。
- ・今後の「やわたタイム」の活用について、共通理解を図り、工夫して取り組んで行く。

## III 成果物

- 1 第3学年算数科授業案「かけ算の筆算としかたを考えよう」
- 2 第5学年算数科授業案「単位量あたりの大きさ 比べ方を考えよう(1)」
- 3 各学級授業実践報告書（算数，理科）
- 4 「集団づくり」「学習環境づくり」各学級の取り組みと成果・課題
- 5 家庭学習の手引きと「家庭学習と生活の記録」カード，取組結果

(研究主任 矢崎 三枝子)